

<学界消息>

◇ 日本環境教育学会第10回大会記録

日時 1999年5月22日(土)～23日(日)

場所 東京学芸大学小金井キャンパス

企画発表

5月22日(土)

午前(10:00～12:30)

- A101 田明男(大阪市立都島小学校)：学校ビオトープを活用した野外教育に関する研究
- A102 下村研司(大阪府吹田市立山手小学校)：総合的な学習を視野に入れた学校ビオトープづくり
- A103 ○伏見典晃・稲垣栄洋・久保田克哉(静岡・のり会)・杉山恵太郎(まちの田んぼを考え隊)・佐野進司(柚野むらおこしの会)：学校教育水田におけるエコ・アップ活動の一事例ープールと田んぼのすてきな関係
- A104 槇重善(習志野市立谷津南小学校・学校環境を考える会)：やってみました田んぼづくりー地域・教師の協働
- A106 尾上伸一(横浜市立下永谷小学校)：観察の場を広げる全校活動
- A107 篠崎芳弘(藤沢メダカの学校をつくる会)：藤沢メダカ復活作戦パートⅢ
- A108 柳田一郎(鹿児島県庁)：環境教育と地域づくりの具体策ー屋久島環境文化村構想ーについて
- B101 ○小堀洋美(武蔵工業大学・環境情報学部)・Edward Stashko(The School for Field Studies)・Richard Primack(Boston Univ.)：持続可能な社会システム構築のための大学レベルでの国際的フィールド教育の展開ー米国SFSの取組み
- B102 新田和弘(東京工科専門学校)：環境教育と市民社会
- B103 中嶋清徳(名古屋港水族館)：水族館における体験学習の可能性
- B104 小川潔(東京学芸大学)：タウンウォッチングする自然観察会
- B106 古屋善啓(鎌倉市役所環境自治体課)：環境教育における地域での連携
- B107 陣内雄次((株)計画情報研究所)：学校教育における“まちづくり”の可能性と課題ー石川県を例にー
- B108 小西由希子(ちば環境情報センター)：市民はどこまで環境学習にかかわれるか
- C101 松井勅尚(名古屋造形芸術短期大学)：教育による近代的美意識からの開放ーライフスタイルの蘇生化を目指して
- C102 井上兼生(埼玉県立大宮中央高等学校)：「モード2」的視点の環境教育への導入
- C103 宮本明宜(千葉県立山武農業高・生物)：環境教育と環境観の転換(一教員が放課後に考えたこと)
- C104 本庄眞(香芝市真美ヶ丘東小学校)：自然文化誌研究と総合学習
- C105 岩田好宏：環境をコアとする教育課程編成の基礎的検討
- C106 福島古(グローバル環境文化研究所)：環境文化学における「教育」の意識づけについて
- C107 原子栄一郎(東京学芸大学付属環境教育実践施設)：教育の環境化あるいはエコロジカル化
- C108 ○篠崎恵昭(埼玉大・教育)・西城戸司(埼玉大・理)：学習指導要領にみる子ども観と教化思想ー環境教育における子どもと大人の関係の見直しー
- D101 椋代惟親(大阪音楽大学)：子どもと学校と地域がともに創り出すエコ体験学習の実践
- D102 遠藤正(府中市立日新小学校)：土日の食農体験が地域を変える
- D103 西川伸一(安土町立老蘇小)・川島宗継

- (滋賀大教育・環境教育湖沼実習センター)
：小学校における酸性雨を素材とした環境学習の実践
- D104 石井信子(千葉市立扇田小学校)：総合的な学習をめざして一地域の自然・人との関わりを実体験
- D105 牧宏(名古屋市立庄内小学校教諭)：行政・NPOとの連携を考えた小学校での環境教育
- D106 ○高城英子(新松戸北中学校)・森里美(新松戸西小学校)：主体的に地域の自然とかかわろうとする態度を育てる学習指導の一考察―「坂川」における小中合同調査活動を通して
- D107 落合清春(厚木市立三田小学校)：環境シンポジウムの取り組みについて
- D108 和泉良司(横浜市立茅ヶ崎小学校)：全教科で進める環境教育とカリキュラム作り
- E101 竹澤伸一(千葉大学大学院)：環境ビジネスの環境教育における教材の有効性
- E102 森幸一(甲南中学校)：特別活動を軸に、本音でせまる環境教育―体育祭のゴミ問題―
- E103 ○重藤英一(門真市立第三中学校/大阪教育大学大学院)・鈴木善次(大阪教育大学)：300人による校区の粉じん調査と参加者の変化
- E104 瀧田健司(名古屋市立大曾根中学校)：まちを愛する気持ちを高める環境教育の指導―学区探検隊活動による総合的な学習の試み
- E105 原田智代(せいわエコクラブ)：中学生が取り組んだ地域住民の意識調査
- E106 長谷川博之(都立青梅東高等学校)：都市におけるタウンウォッチングを切り口にした総合学習
- E107 相澤睦(聖学院中学校・高等学校)：いのちを食べる
- E108 田中正彦(千葉県立検見川高等学校)：高等学校における環境学習の実践―
- E109 ○武田章・中道貞子・大内淳也・永曾義子(奈良女子大学文学部付属中・高校)：廃棄物処理場建設をめぐるロールプレイング

展示発表

5月22日(土)～23日(日)

- L101 斎藤三男(実践生物教育研究会)：自然観察路コンクールへの招待
- L102 下羽友衛(東京国際大学国際関係学部)・下羽ゼミナールI～IV：東京国際大学国際関係学部・下羽ゼミにおける環境学習活動―現場体験学習を中心として
- L103 高月紘(京大環境保全センター)：漫画による環境教育
- L105 井上美智子(姫路学院女子短大)：保育者の環境教育に対する意識と実践の実態について
- L106 ○青木郁子・中原正大・武井政子・岩崎節子(ヤマギシズム地球村実行委員会)：農のもつ教育力
- L107 石郷岡卓哉・橋優子((財)日本野鳥の会サンクチュアリセンター)：人と干潟の生きものをつなぐ―谷津干潟自然観察センターにおける干潟生物の水槽展示の試み―
- L108 棕台惟親(大阪音楽大学)：古代人の知恵に学んで生産し、科学する子どもたちがつくりだした地いきぐるみの“環境総合学習”と『エコふれあい祭り』―子どもと地いきと学校がともにつくる教育
- L109 林浩二(千葉県立中央博物館)：環境教育における討論(3)
- L110 川村協平(山梨大学)・陳盛雄(東京農大)・中村織江(山梨大学)・丘丹佳・小林恵理香(山梨大学大学院)・広野陽子(山梨大学)：キャンプ場の景観の好みに関する研究―日本と台湾の比較―
- L111 山本義史・杉浦嘉雄(日本文理大学)：エコロジー・キャンプが与える心理的効

果に関する研究

大会シンポジウム

5月22日(土)午後(13:30~16:30)

シンポジウムテーマ<教育改革と環境教育>

パネリスト(五十音順)

岸 裕司(学校と地域の融合教育研究会副会長・秋津コミュニティ会長)

木俣美樹男(東京学芸大学環境教育実践施設教授・自然文化誌研究会)

諏訪 哲郎(学習院大学文学部教授・学習院企画部長)

森 清和(横浜市環境科学研究所)

コーディネーター(五十音順)

大島英樹(立正大学)・樋口利彦(東京学芸大学)

司会・田中敏久(学校教育ネットワーク)

一般発表

5月23日(日)午前・午後(9:00~14:00)

A 202 ○大石康彦(森林総合研究所東北支部)・比屋根哲(岩手大学農学部):授業内容が小学生に及ぼす教育効果の検討(I)授業後の生徒の感想分の分析から

A 203 ○比屋根哲(岩手大学農学部)・大石康彦(森林総合研究所東北支部):授業内容が小学生に及ぼす教育効果の検討(II)事前・事後におけるアンケート結果の分析から

A 204 ○桶垣栄洋・辻井寛・久保田克哉(静岡・のらり会)・山本由加(草薙の里・遊森民)・岩崎晴美(静岡おやこ劇場):体験活動と観劇活動が森林イメージの変化に及ぼす影響

A 205 ○古家昌子(東京学芸大学大学院)・樋口利彦(東京学芸大学):学校外の施設や機関を活用した環境教育の実態調査

A 206 野田嘉昭(愛知県立天白高校):名古屋市のタンポポ(98年度)

A 207 大西久江・石田悦美・木村明美・○池田健蔵:三谷小学校野草園の歩み

A 208 赤尾整志(グローバル環境文化研究所):学校ビオトープの基礎的研究(II)共生の方法論

A 209 津田美子(名古屋市立荒子小学校):クロスカリキュラムによる小学校6年生の環境学習 ~児童の自主的な活動と保護者への啓蒙を重視して~

A 210 横山賢太郎(かながわトラストみどり財団会員):横浜市の環境保護行政と市民の環境保全活動

A 211 高島耕一郎(吹田自然観察会吹田市立山田中学校):市民ボランティアによる自然復活事業

A 212 中川重年(神奈川県森林研究所):市民参加型里山保全活動における3つの視点

A 214 ○岡田千代子・熊谷朝臣・小川滋(九州大学演習林):森林教育の定義

A 215 ○遠藤良太(千葉県林業試験場)・榎本博明(大阪大学人間科学部)・榎本恵理:教育の森の活用状況

B 202 ○中端章博・阿部治(埼玉大学大学院教育学研究科):日本のイルカ漁の一考察

B 203 ○小川かほる・赤井裕・石井皓・内山真義・小寺正明・山田一裕・浦野紘平(水環境教育研究委員会(WEE21)):水環境教育研究委員会(WEE21)の活動について

B 204 ○井阪尚司(滋賀県立蒲生東小学校)・川嶋宗継(滋賀大学環境教育湖沼実センター):ため池の日常性を科学する(1)~琵琶湖東部の水利用システムの変遷

B 205 ○山田一裕(東北大院工学研)・田中美恵子・篠原富雄(みやぎ生活協同組合)・須藤隆一(東北大院工学研):児童に

- よる水辺環境の評価
- B 206 ○岩本廣美(奈良教育大学)・渋谷友和(奈良教育大学・学生)：河川における子どもの親水行動と水辺環境—大和川支流での実態調査を通して
- B 207 安岡潤子(WWF Japan)：WWFあおぞら移動教室～身近な自然を守る環境教育プログラム事例～
- B 208 大依久人(滋賀県坂田郡山東町立東小学校)：小学校における地域素材を生かした環境学習
- B 209 ○荒井千鶴(世田谷トラスト協会)・榎本正邦(多摩川センター)・飯沼慶一(成城学園初等学校)：「せたがやを知ろう せたがやあそびクラブ」の試み
- B 210 星一彰(福島県自然保護協会)：環境NGO福島県自然保護協会30年の歩み
- B 211 亀井浩次(藤前干潟を守る会)：藤前干潟における環境教育活動
- B 212 熊澤峻子(日本環境教育学会)：桂川・相模川流域協議会の活動から
- C 202 古瀬浩史((株)自然教育研究センター)：自然公園施設の自然にやさしくない—側面—鳥類の窓ガラスへの衝突死
- C 203 高橋宏之(千葉市動物公園)：動物園における環境教育～展示をして何を訴えるのか～
- C 204 ○松本朱実(大阪教育大学大学院)・鈴木善次(大阪教育大学名誉教授)：動物園でおこなう環境学習プログラム
- C 205 ○嶺村欣平(白馬村立白馬南小学校)・酒井賢一(更埴市立埴生中学校)：環境教育の実践的研究
- C 206 中島美恵子(高岡市立定塚小学校)：豊かな感性と認識を育てる環境教育(その10)
- C 207 田中広樹((社)大阪自然環境保全協会)：「自然」のない街中での「自然」観察会—みなの自然クラブの取組
- C 208 藤田薫(日本野鳥の会サンクチュアリ・センター)：「調査できる市民」の育成カリキュラム
- C 210 増田直広(財団法人キープ協会)：地域資源を活用した広域型環境教育システムの現状と課題その2—八ヶ岳環境と文化のむららを題材として
- C 211 ○樋口利彦(東京学芸大学)・菊池晃(国分寺市立光公民館)：自然・地域環境調査活動からまちづくり学習へ—国分寺市公民館講座の実践事例から
- C 212 櫻井常矢(東北大学大学院)：環境市民活動における参加型学習の可能性
- C 213 ○戸田敬・石田康幸(埼玉大学)：技術・家庭科の教科書にみるリサイクル教育の変遷
- C 214 ○梶屋一(名古屋栄養専門学校)・辻正博(名古屋大学理学部)：給食管理実習で生じる生ゴミの肥料化
- C 215 鎌苅佐世子(奈良教育大・院)：環境教育における「ごみ問題」の学習に関する研究—中国の環境問題と人々の意識を通して—
- C 216 田中純江(東京都清瀬市立清瀬小学校)：小学校における生ごみを題材とした学習プログラムの試行に関する研究
- D 202 ○飯沼慶一(成城学園初等学校)・有馬進一(藤沢市立長後中学校)・市川智史(鳴門教育大)・佐藤真久(IGES)・原子栄一郎(東京学芸大)・藤本勇二(穴吹町初草小学校)：日本における「エコスクール」像—エコスクールワークショップより
- D 203 田部俊充(上越教育大学)：米国地理ナショナル・スタンダードと環境教育
- D 204 藤岡達也(大阪府教育センター)：地域の地学的自然を核とした環境教育開発の視点
- D 205 ○赤松純子(和歌山大学)・宇高順子(愛媛大学)：小・中・高等学校「総合授業：水」のワークシート
- D 206 ○渡邊俊之(愛媛大大学院)・宇高順子(愛媛大)・赤松純子(和歌山大)：小・中・高等学校「総合授業：ゴミと資源・エ

エネルギー」の学習内容構想

- D207 ○妹尾理子・井元りえ（東学大連合大学院）・小澤紀美子（東京学芸大学）小・中学校における環境教育の取組み—その1「総合的な学習の時間」に関して—
- D208 ○井元りえ・妹尾理子（東学大連合大学院）・小澤紀美子（東京学芸大学）小・中学校における環境教育の取組み—その2 エネルギー教育の実践に関して—
- D209 佐島群巳（桐蔭横浜大）・信澤芳江（桜木小）・平山許江（文京女子大）・伊藤瑞穂（慈光幼稚園）・○鷹野由希子（日本女子大）：「資源・エネルギー・環境」に関する総合的学習のカリキュラム開発（その2）幼稚園・小学校低学年における子どもの「環境とのかかわり方」
- D210 山下宏文（京都教育大学）・内野紀子（山梨大学）・石原淳（文京区立金富小学校）・佐島規（東京都教育庁）・下田聡子（杉並区立第一小学校）・○鈴木真（杉並区立桃井第四小学校）・田中明（川崎市立立母口小学校）・田邊佳伸（府中市立第六小学校）：「資源・エネルギー・環境」に関する総合的学習のカリキュラム開発（その3）小学校中・高学年の学習モデル
- D211 高山博之（日本女子大学）・○伊原浩昭（千葉市教育委員会）・善財利治（千葉県白井町立大山口中学校）・増田稔（渋谷区立代々木中学校）・久樹富貴子（大田区立六郷中学校）・○伏木久始・妹尾理子・井元りえ（東学大連合大学院）：「資源・エネルギー・環境」に関する総合的学習のカリキュラム開発（その4）—中学校・高等学校の学習モデル—
- D215 仙田考（英国・レディング大学）：小学校における校庭利用、デザイン、校庭づくりの現況
- E201 ○榎本恵理・榎本博明（大阪大学）・遠藤良太（千葉県林業試験場）：高校生の自然体験
- E202 浦田憲二（武蔵丘短期大学）：ソロビパークにおける自然への気づきについて（その2）
- E203 ○岡村泰斗（筑波大学大学院）・飯田稔・関智子（筑波大学）・黒澤毅（筑波大学大学院）：キャンプにおける環境教育プログラムと冒険教育プログラムが参加者の自然に対する態度に及ぼす影響
- E204 ○榎本博明（大阪大学）・遠藤良太（千葉県林業試験場）・榎本恵理：小中学校教員の自然体験
- E205 兼安本子（宇部市教委恩田運動公園派遣・恩田小）：山口県宇部市における、保有校地の用地別面積に観る学校教育（学習）環境から、環境教育（野外教育）の素材についての考察（I）
- E206 ○小淵幸輝・小林毅（自然教育研究センター）：環境教育的な野外解説板の試み
- E207 ○檜川直子・小林毅（自然教育研究センター）：ティーチャーズガイドの活用
- E208 ○小林毅・湯原敦子（自然教育研究センター）：ビジターセンターの来訪者分析
- E209 ○原口正裕（三重大学工学部）・佐々木身知子・太田奈穂美（三重大学生物資源学部）・粉川一郎（慶應義塾大学SFC研究所訪問研究員）・高山進（三重大学生物資源学部教授）：コメントツリー方式を用いた環境家計簿意見集約について
- E210 鈴木靖文（ひのでエコライフ研究所）：環境家計簿による家庭内コミュニケーションと環境荷負の変化
- E211 笹谷康之・○高洲路子・○齋藤美子（立命館大学）：環境家計簿を通してのコミュニケーション
- E212 高月紘（京大環境保全センター）：ライフスタイルと環境荷負
- E213 高木史人（（財）リバーフロント整備センター）：環境保全型社会と技術者教育（大学）の課題
- E214 藤村コノエ（エコ企画）：ゲームで温暖化防止のための方法を学ぼう——STOP

!温暖化ゲーム

- E 215 ○石井晴・伊藤章夫・押尾敏夫・金高恵美子・鈴木将夫・藤田明宏・中川和義・環境学習研究G(千葉県環境研究所)：地公研における地球温暖化防止を目指す環境学習の取り組み
- E 216 堀雅宏(横浜国大)・渡辺祐司(鶴見工高)・高島武雄(横浜国大)・金子裕(鶴見工高)：地球環境問題理解のためのモデル実験装置の作製
- F 202 山本勝博(大阪府教育センター)：紫外スペクトル法による環境水中の有機成分の測定の試み
- F 203 杉浦公昭(東洋大学工学部)：所沢市のダイオキシン汚染地図とNO₂汚染地図作成の環境調査活動参加による大衆の環境教育実践
- F 204 ○金子玲司・田辺寛子・埼玉県サイエンスインストラクター「環境を科学しよう」班(埼玉県サイエンスインストラクター)：水質測定用バックテストとペットボトルを用いた大気中のNO₂の簡易測定及びその環境教育への実践例について
- F 205 ○紺野界(大阪府教育センター)・芝本和代(茨木市立北陵中学校)：パソコン計測を用いた大気中のCO₂測定の教材化
- F 206 ○生方秀紀(北教大・鋼路校)・川島貴(大阪府豊中市)：メーリングリストによる環境教育の可能性—体験の交差点としてのMLの分析から
- F 207 ○叶田真規子・樋口利彦(東京学芸大学環境教育実践施設)：インターネットを活用した環境学習—環境学習ネットワークの成果と課題
- F 208 山本格(埼玉県蕨市立第二中学校)：GLOBEプログラムと総合的な学習
- F 209 村井護晏(大分大学)：ディベートによる環境教育—インターネット使用における実践例から
- F 210 ○粉川一郎(三重県デジタルコミュニティズ実験事業エコボランティアネットみえ)
- 高山進・(三重大学生物資源学部教授)：三重県におけるインターネットを利用した環境情報流通システム
- F 211 ○新井正一・池田勝枝(目白学園女子短期大学生生活科学科)：インターネットを活用した環境教育—立ち枯れの現地観測と情報発信—
- F 212 ○松山正将・花測健一・菊地清文・佐伯吉勝(東北工業大学)：市街地保存緑地の情報づくり
- F 214 ○岩測成紀・国井恵子・中澤堅一郎(仙台市科学館)・村松隆・見上一幸(宮城教育大学)：微小生物と水質リモートセンシングを利用した水田環境の教材化
- F 215 辻忠恭(東京学芸大学大学院)：ヒーアイランド現象を活用した環境教育
- F 216 叶田真規子・○木俣美樹男(東京学芸大学環境教育施設)：EILNetにおける「食文化とライフスタイル」プログラム
- G 202 井上静香(広島大学大学院)：ドイツにおける環境教育の展開に関する一考察
- G 203 石川聡子(大阪教育大学)：日・北米・豪のジャーナル分析による環境教育研究の動向比較—その2—
- G 204 川村研治(地球環境パートナーシッププラザ)・村上千里・島田幸子・國田真紀子(日本環境財団)：持続可能な社会のための教育に関する日米交流事業経過報告
- G 205 倉田周幸・川田太郎(鶴見大学歯生物部)・平田純子・西川純雄・○佐々木史江(鶴見大学歯学部生物学教室)：WWFトラ保護パネル展における自然環境問題への意識調査
- G 206 安溪貴子(山口大学非常勤)：西ケニア・カカメガの森を守る
- G 207 ○升島永美子(広島大学大学院国際協力研究科)・田中春彦(広島大学学校教育学部)：アジア・アフリカ地域における環境教育の現状と我が国の教育協力の可能性

- G208 ○森下佐和子・木俣美樹男（東京学芸大学附属環境教育実践施設）・矢島大輔（野村総合研究所）：インドにおける環境教育の現状
- G209 グェン ティ タン（早稲田大学大学院）：ベトナムにおける環境教育の実態と課題ーホーチミンの全人教育の視点から
- G210 ○佐藤真久（地球環境戦略研究機関）・阿部治（埼玉大学）：アジア太平洋地域の高等教育段階における環境教育の現状と課題
- G211 ○野村康（財団法人地球環境戦略研究機関）・阿部治（埼玉大学）：アジア太平洋地域におけるNGOによる環境教育国際協力の現状と課題
- G212 阿部治（埼玉大学）・ビシュヌ・バンダリ（IGES）：アジア太平洋地域における環境教育推進の指針
- G213 萩原豪（学習院大学大学院政治学研究科）：台湾における環境教育政策(4)
- G214 ○崔承国・土屋英男（京都教育大学）：中国および日本の教科書にみられる環境教育に関する記述の比較
- G215 小寺正明（環境・国際研究会）：中国の環境教育と日中協力
- G216 田中敏久（学校教育ネットワーク）：日中協働による環境教育推進の手応え
- H201 荒木光（京都教育大学）：常識の非常識
- H202 乾淑子（北海道東海大学）：L E T S（Local Exchange Trading System）の現在
- H203 山口裕司（宮崎公立大学人文学部）：地球的環境運動の変遷
- H204 塩澤豊志・西城戸司（埼玉大学理学部）：環境物質学入門講座へのいざない
- H206 榎原洋子（愛知教育大学）：地球規模を意識した環境教育における時間認識形成の重要性とそのための有効な方法について
- H207 植月千砂（京都橘女子大学）：パーマカルチャーによる環境教育の可能性
- H208 高山進（三重大学生物資源学部）：「地域環境の社会管理」時代の総合研究のあり方
- H209 松葉口玲子（鳴門教育大学）：環境教育と消費・ジェンダー
- H210 峰村文彦（川崎市立臨港中学校）・田中敏（上越教育大学）：環境配慮行動の意欲と実行に関する因子分析
- H211 渡部智暁（東京学芸大学附属環境教育実践施設）：「環境のための教育」に関する一考察
- H212 ○高橋正弘（地球環境戦略研究機関）・阿部治（埼玉大学）：教育改革の動向と環境教育
- H213 ○日比純子（岐阜大教育学研究科・大垣市立赤坂中）・杉原利治（岐阜大学教育：環境に対する認識・行動と教育に関する研究(1)実践・行動を促す要因と中学生の実態)
- H214 ○杉原利治（岐阜大教育）・日比純子（岐阜大教育学研究科・大垣市立赤坂中）：環境に対する認識・行動と教育に関する研究(2)中学校家庭科教師の実態と中学生との比較
- H215 寺本潔（愛知教育大）・杉江良夫（愛知教育大学学生）：愛知県日間賀島における音風景の変遷○
- H216 ○小林恵里香（山梨大学大学院）・川村協平・中村織江・広野陽子（山梨大学）：自然に対する心理的距離（その1）
- I 202 ○辻正博（名古屋大学理学部）・檜尾一（名古屋栄養専門学校）：ジャンボタニシについての調査報告ー栄養専門学校の授業での試み
- I 203 ○山崎剛・中原正太・上道大吾・鈴木典子（ヤマギシズム地球村実行委員会）：循環の農ある暮らし～群れて育つ子供たち～子ども合宿に関わる大人たちの役割
- I 204 北野日出男（創価大・教育）：農業教育 Pesticide Educationの必要性
- I 205 ○太田弘一（愛知教育大学）・小川雄二

- (名古屋短期大学)：大都市住宅地における住民参加の農業実践の可能性
- I 206 瀧陽乙子(マザーアース)：プエブロ族(ネイティブアメリカン)のアドービ建築による土壁塗り
- I 207 上原巖(信州大学大学院)：地域の自然環境を生かした知的障害者の療育活動
- I 208 石坂孝喜・小島みさ子・上田泰子・上倉ゆうこ・玉置亮子(大塚保育園)：幼児の体験学習について—お泊り保育—
- I 209 井上亘(学)金山学園めばえ幼稚園)：幼児教育と環境教育
- I 210 遠藤康子(環境教育ネットワークとちぎ・宇都宮市立東小学校)：幼児期における環境教育
- I 212 村川智美(香川大学大学院)：子どもの遊び空間の変化と自然体験の意義
- J 202 宇高順子(愛媛大学)：石けん排液の石けん分除去法の開発
- J 203 坂口大介(大阪大学大学院)：水俣病を立体的に捉え技術者の倫理を考えさせる授業
- J 204 ○酒井賢一・奥原竜司(更埴市立埴生中学校)：中学校理科学習における環境教育の実践—川の浄化と分解者の働き—
- J 205 ○岩井省一(河合塾)・今村光章(仁愛女子短期大学)：高等学校公民科「倫理」における環境問題の取扱いについて—教科書を中心に—
- J 206 永川元(神奈川県立久里浜高等学校)：ウメノキゴケを使った環境教育実践
- J 207 井口俊司・田伏政昭・清水理・喜多嶋伸幸・阿形武芳(和歌山県立向陽高等学校)：「環境科学」「環境課題研究」における教材開発と学習活動の工夫・改善
- J 208 福田直(埼玉県立所沢緑ヶ岡高等学校)：土の浄化機能を確かめる課題研究の実践
- J 209 ○田村憲司・東照雄(筑波大学応用生物化学系)：体系的な土壌の環境教育に関する研究第2報. 環境教育からみた土壌層位の意義づけ
- J 210 飯尾美行(静岡県立浜松城北工業高校・環境クラブ顧問)：地球にやさしい"モノづくり"と環境教育—つくること・遊ぶこと・考えること
- J 211 古澤良彰(上越教育大学)：高校生、環境保護ボランティア活動の実践
- J 212 ○高橋かおる・熊谷安代・中野修二(千葉経済大学附属高等学校)・岩田好宏：地域と学校を結ぶ地域環境調査学習の実践報告
- K 202 脇誠治(群馬県立医療短期大学)：看護学生に対する環境教育のあり方
- K 203 今村光章(仁愛女子短大)：短期大学における環境教育の実践報告
- K 204 森井康幸(吉備国際大学)：社会科学系大学生に対する環境教育
- K 205 新見治(香川大学教育学部)：香川大学教育学部における野外観察授業「土曜巡検」
- K 206 ○木原浩貴・笹谷康之(立命館大学)：環境ゼミにおける参加体験の意義
- K 207 笹谷康之(立命館大学)：学外体験型環境ゼミの試み
- K 208 ○山口洋典(立命館大学大学院)・笹谷康之(立命館大学)：コーオプ型のNPOインターンシッププログラムの推進による大学環境教育の実践
- K 209 市川智史(滋賀大学教育学部)・今村光章(仁愛女子短大)・松葉口玲子(鳴門教育大)：教員養成における環境教育カリキュラムの開発
- K 210 鳩貝太郎(国立教育研究所)：環境教育に関する教員研修プログラムの開発
- K 211 ○内山真義・鶴沢広行・松尾邦彦・山本真理・浅尾一巳・小川かほる・石井皓(T E A - N E T)：千葉県職員自主企画セミナーにおいて実施した参加体験型環境学習プログラム
- K 212 ○田中春彦(広島大学学校教育学部)・升島永美子(広島大大学院国際協力研究科)

：UNESCO-ACEIDによる環境教育教材
開発の動向(その2)－横断的・総合的視
点を踏まえて

- K213 柏村恒(東京大学・農学生命科学研究科)
：大学教養課程学生に対する演習林にお
ける実地講義参加者の意識について
- K214 ○柳堀朗子(愛知県立看護大学)・小谷
野錦子(愛知学泉大学)：環境保全行動
の実行可能性に関連する要因の検討
- K215 大島英樹(立正大学文学部非常勤)：経
験から学ぶ－成人教育としての環境教育
へ向けて(IV)
- K216 林智(元大阪大学)・伊瀬洋昭(東京都
立産業技術研究所)：成人に対する開発
教育としての環境教育の重要性－滋賀・
草津高速道路インタチェンジ建設問題に
かかわって

ミニシンポジウム

5月23日(日)
午後(14:00~17:00)

- M201 杉山恵一(静岡大学)・赤尾整志(阪神
・都市バイオトップフォーラム)：環境教育
と学校バイオトップ(III)－トンボ池を考
える－
- M202 西城戸司(大学環境教育研究会・埼玉大
学理学部)：大学環境教育と問題解決能
力の育成
- M203 鳩貝太郎(国立教育研究所)：環境教育
の教員研修の充実にむけて
- M204 増田直広(財団法人キープ協会)：環境
教育は教育改革につながるか－体験学習
とワークショップの功罪を議論する－
- M205 ○阿部治(埼玉大学)・ピシユヌ バンダ
リ((財)地球環境戦略研究機関)：アジ
ア太平洋地域における環境教育戦略研究
- M206 鈴木善次(大阪教育大学)：食と農をめ
ぐる環境教育
- M207 近藤正樹(白梅女子短大)：幼児期の環

境教育－発達段階と環境教育の方法－

ミニワークショップ

5月23日(日)午後(14:00~17:00)

- W201 田中正夫(中村理科工業(株))：デー
タロガーを使った環境測定
- W202 永川元(神奈川県立久里浜高等学校)：
高校の課外授業における環境教育のあり
方
- W203 遠藤正(日新カモミール)：自然の恵み
を体感しよう(桑の樹皮の皮すきとゴマ
の油搾り)
- W204 瀧陽乙子(マザーアース)：ネイティブ
アメリカンから学ぶシリーズ－『アメリ
カ先住民』ロックアートを描いてみよう
！

自由集会

5月23日(日)午後(14:00~17:00)

- S201 ○藤岡達也(大阪府教育センター)・大辻
永(茨城大)・山田俊弘(千葉高)・荻
原彰(須坂高)：自然災害と環境教育(II)－
自然災害・防災教育と自然観－
- S202 ○石川聡子(大阪教育大学)・塩川哲雄
(大阪府立北千里高等学校)・原子栄一
郎(東京学芸大学附属環境教育実践施設)
：環境のための(for)批判的教育－可
能性をつくりだす－

◇ 関西支部の活動 (1999年2月~9月)

○関西ワークショップの開催

第72回関西ワークショップ(とき：'99/2/5 と

ころ：兵庫県尼崎市小田公民館) 共催：阪神・都市ビオトープフォーラム 基調講演：戸田耿介氏(兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員)「地域の人・自然とつながる校庭づくり」

第73回関西ワークショップ(とき：'99/3/22 ところ：大阪府立総合青少年野外活動センター) 山根 みどり氏(山階鳥類研究所 協力調査員)「野鳥の標識調査から見えてくるもの」(実習と報告)

第74回関西ワークショップ(とき：'99/6/12 ところ：大阪教育大学天王寺キャンパス) 鈴木善次氏(大阪教育大学名誉教授)「環境教育—この10年をふりかえって—」

第75回関西ワークショップ(とき：'99/7/31~8/1 ところ：甲南大学広野グラウンド) フィールドワークショップ：「ビオトープ池の造成」

○ニュースレターの発行(「関西ECOMAIL」)
第48号(99/2/24) 第49号(99/5/17) 第50号(99/7/20)

○その他

日中環境教育情報交流協会第1回シンポジウム「現代の環境問題と教育情報交流—21世紀に向けての環境教育の可能性—」(期間：'99/8/16~17, 会場：中国北京大学)を共催

第1回エコツアー：内モンゴルと重工業都市包頭を訪問(期間：'99/8/17~22, 場所：中国内蒙古自治区)

◇福岡県支部の活動

(1999年4月~8月)

○第2回例会の開催(4/24)
環境シンポジウム「大気環境を考える」

○第2回年会の開催(8/28)
シンポジウム「『総合的な学習』と環境教育」
一般発表

○ニュースレターの発行
「福岡県環境教育学会ニュースレター(仮称)」
VOL.3(1999.6)

